資料4

子供の読書活動に関する現状と論点

文部科学省生涯学習政策局青少年教育課

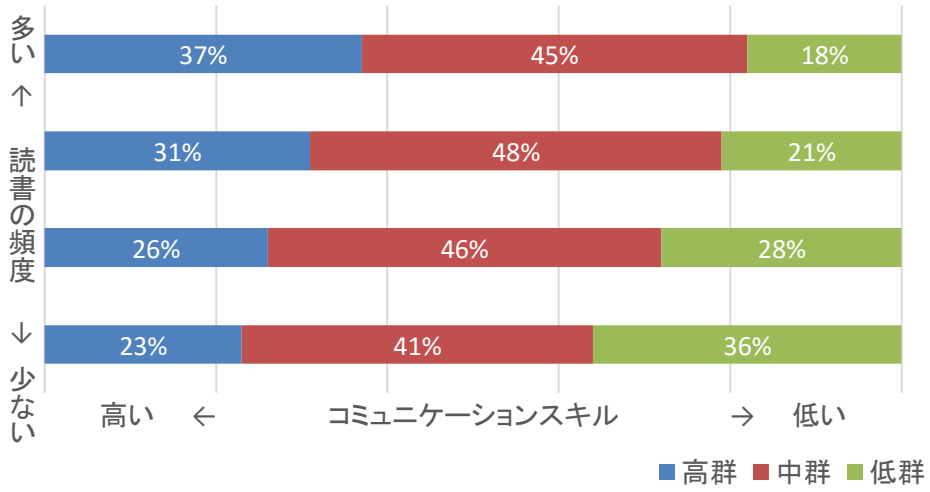
読書の意義、効果

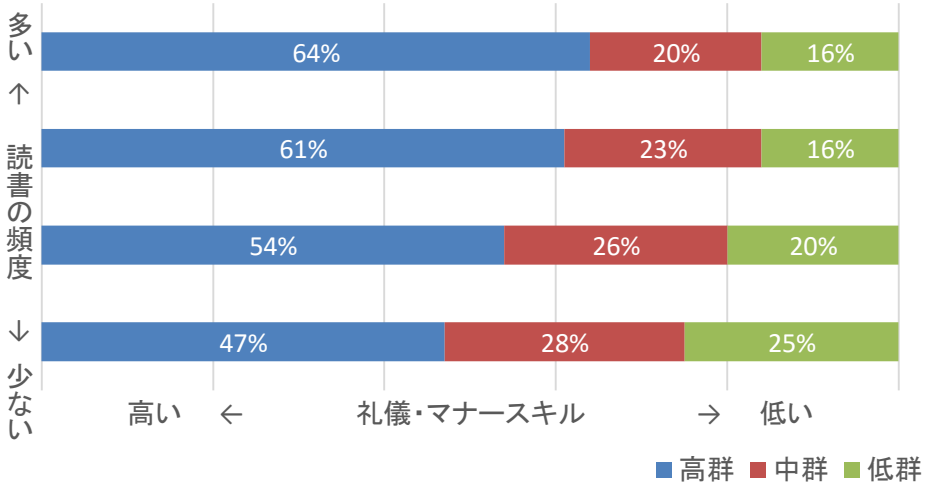
子どもの読書活動の推進に関する法律（平成13年法律第154号）

子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの（第2条）

子どもの生活力に関する実態調査（平成27年、（独）国立青少年教育振興機構）

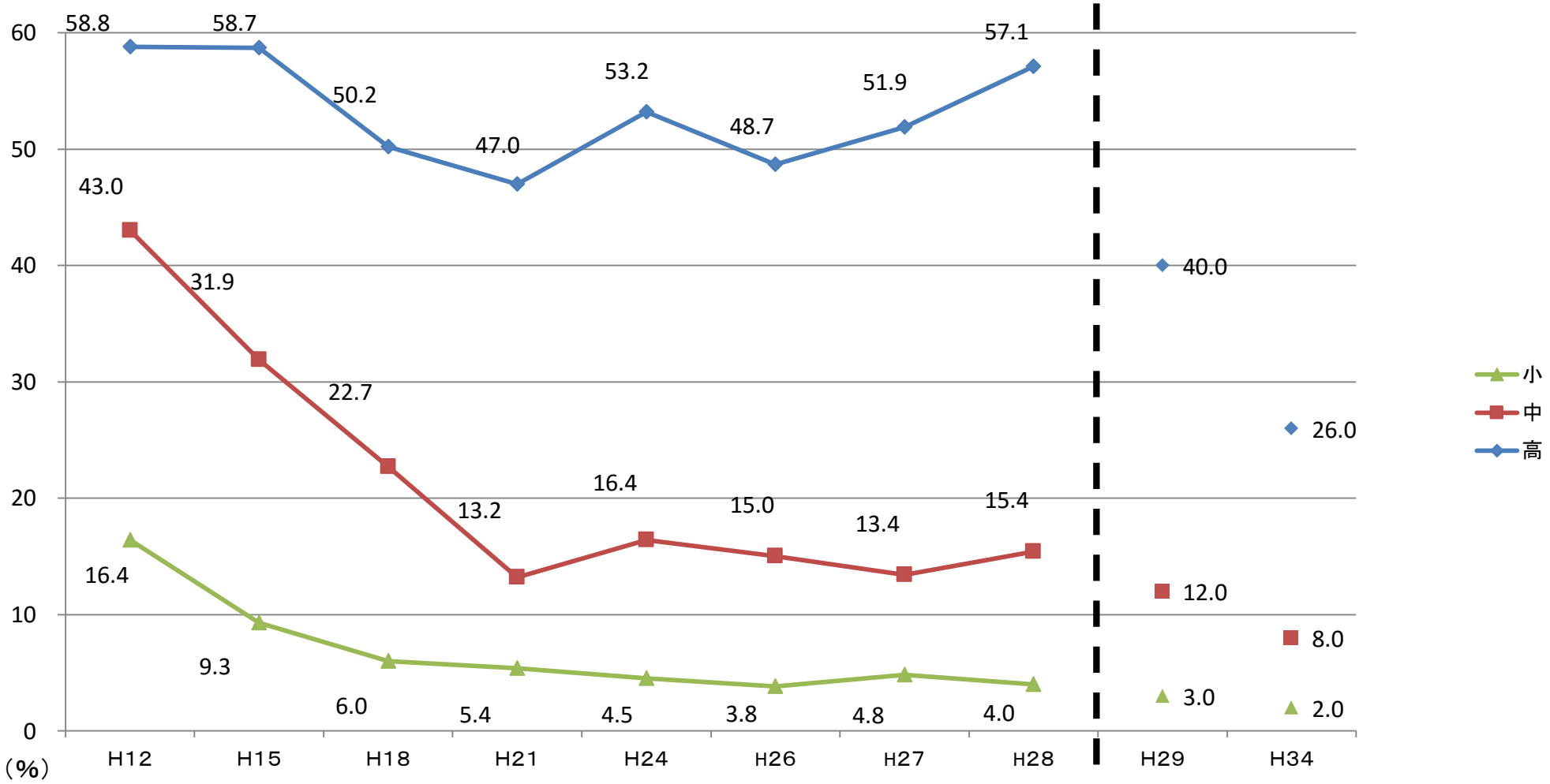
読書をすることが多い子供ほど、コミュニケーションスキルや礼儀・マナースキルが高い傾向にある。





不読率

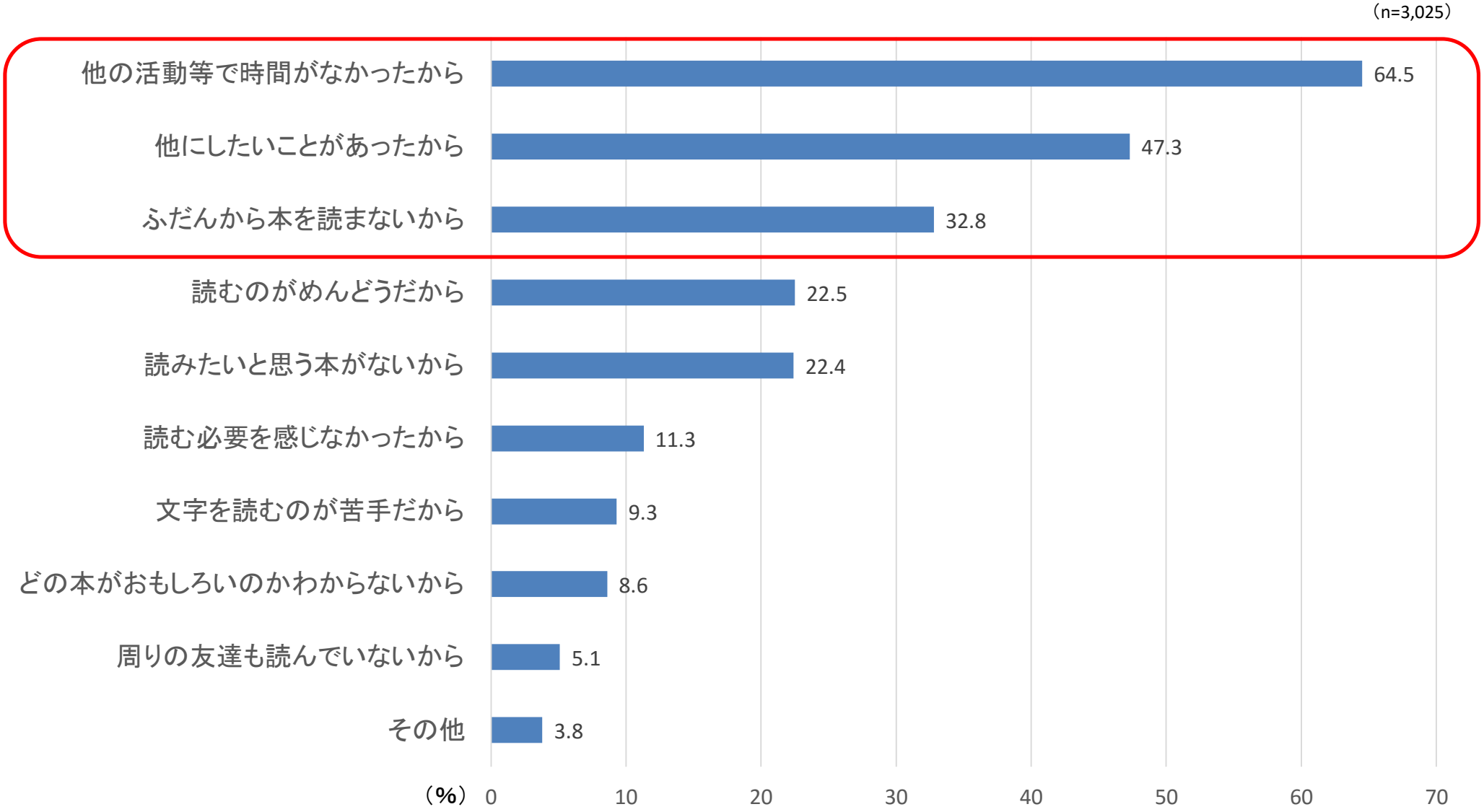
第3次計画（平成25年策定）においては、不読率について以下のような目標を掲げている。
・おおむね5年後（平成29年度）　小学生：3%以下　中学生：12%以下　高校生：40%以下
・10年後（平成34年度）　小学生：2%以下　中学生：8%以下　高校生：26%以下
しかし、現状として、特に高校生の不読率は依然高い状況にある。



出典）全国学校図書館協議会、毎日新聞社「学校読書調査」より作成

高校生が本を読まない理由①

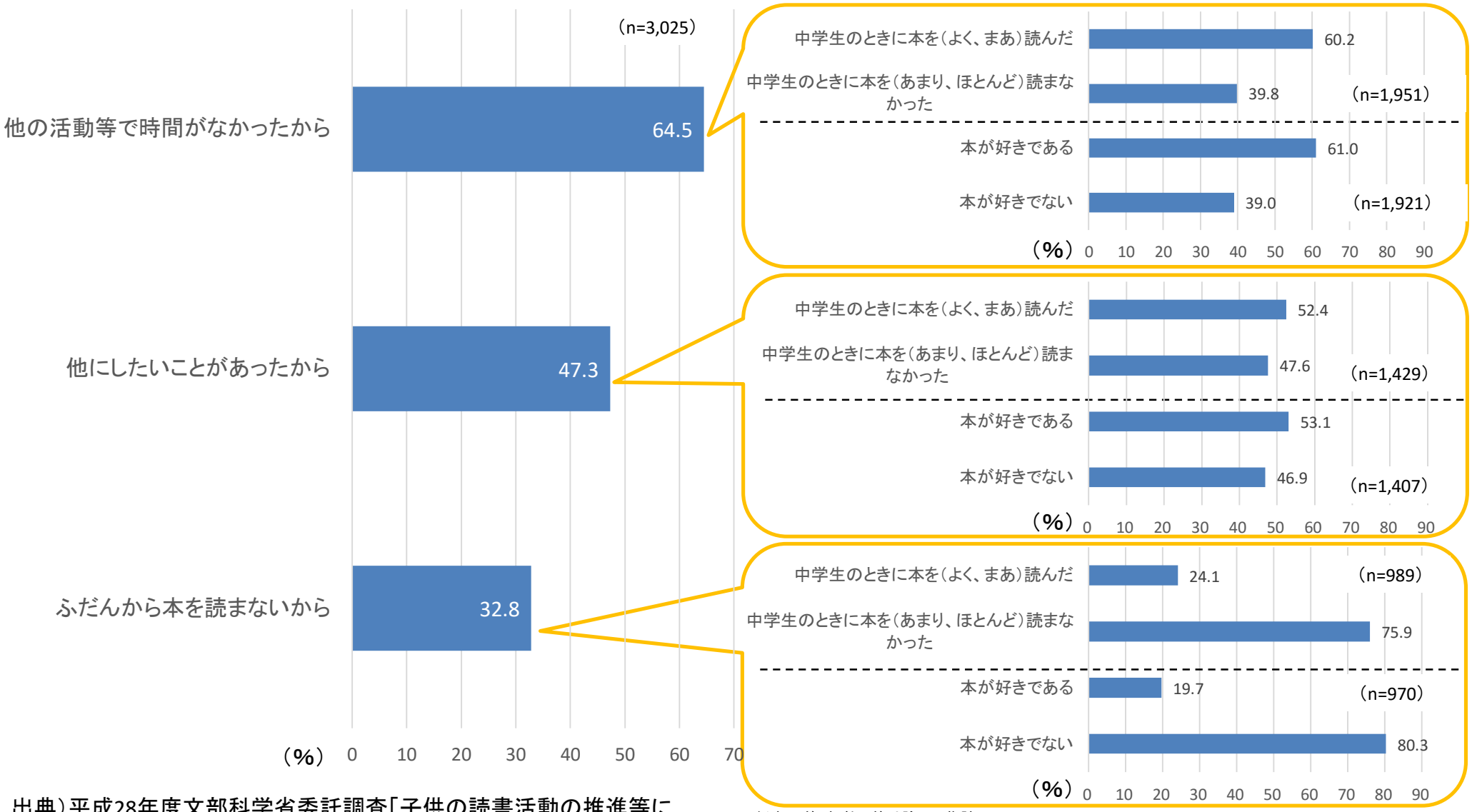
高校生が本を読まない理由は、「他の活動等で時間がなかったから」「他にしたいことがあったから」「ふだんから本を読まないから」が多い。



出典）平成28年度文部科学省委託調査「子供の読書活動の推進等に関する調査研究報告書」

高校生が本を読まない理由②

「他の活動等で時間がない」高校生は、中学生までの読書量が多く、本が好きである傾向にある一方、「ふだんから本を読まない」高校生は、中学生までの読書量が少なく、本が好きではないという傾向にある。



出典）平成28年度文部科学省委託調査「子供の読書活動の推進等に関する調査研究」より分析

注）無回答・無効回答は除いて集計
注）「本が好きか」の問いに「（とても・やや）そう思う」を「好き」、「（あまり・まったく）そう思わない」を「好きでない」に分類

高校生が本を読まない理由③

時間がない、他にしたいことがあるなどの理由で高校生になって本を読まなくなる子供と、中学から高校にかけてずっと本を読まない子供がいる。

中学生の時に本を読んでいた
（本が好き）

→ 高校生になっても本を読んでいる

→ 高校生になって本を読まなくなった

限られた時間の中で読書をしたり、読書の優先順位が上がるようなきっかけづくりを行う必要がある。

中学生の時に本を読まなかった
（本が好きではない）

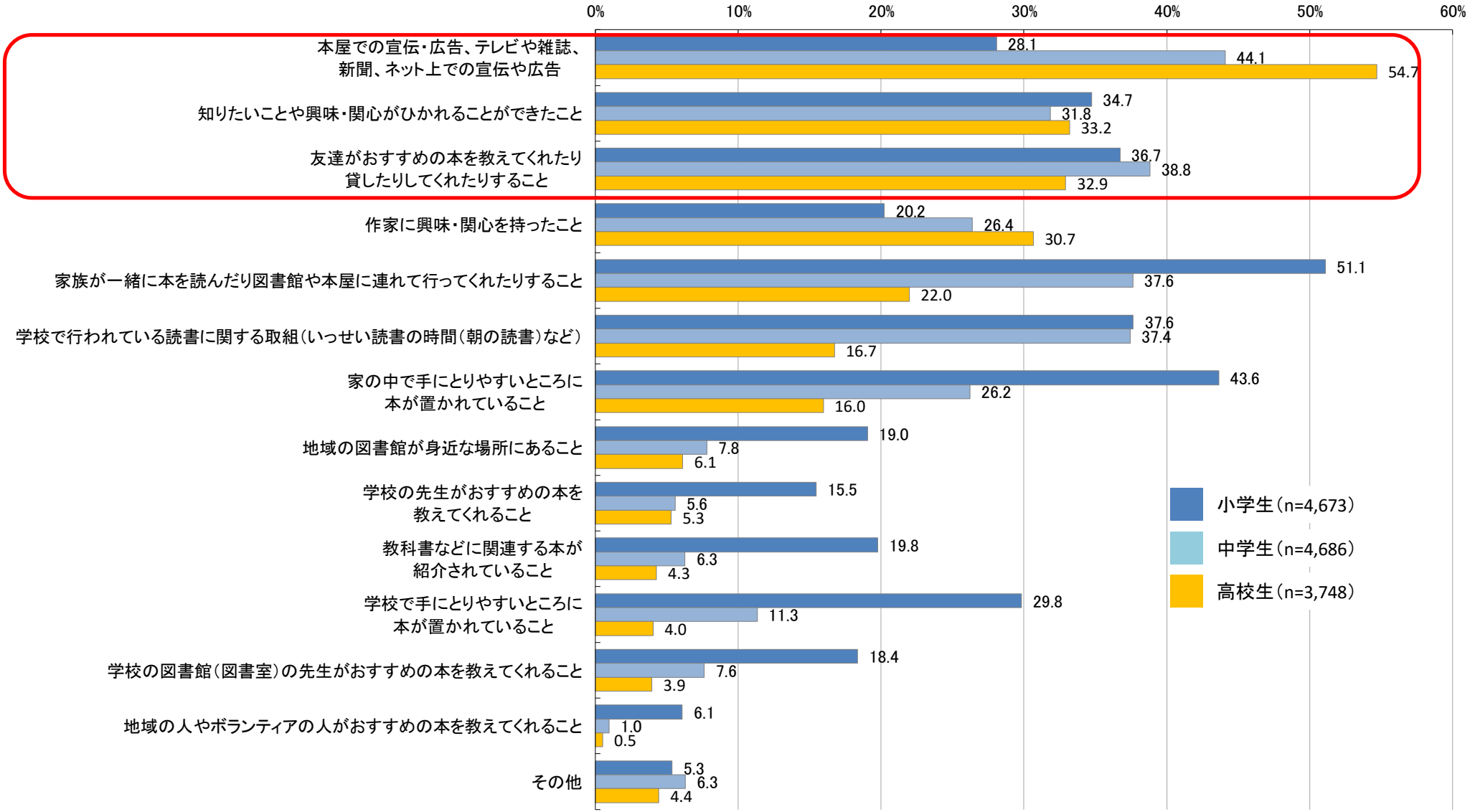
→ 高校生になって本を読むようになった

→ 高校生になっても本を読まない

高校生になるまでに読書習慣を形成する必要がある。

高校生が読書をするきっかけ

「本屋での宣伝・広告、テレビや雑誌、新聞、ネット上での宣伝や広告」が中学生までに比べて多い。一方、「知りたいことや興味・関心を持ったこと」「友達がおすすめの本を教えてくれたり貸してくれたりすること」は中学校までと同様に多い。



出典）平成28年度文部科学省委託調査「子供の読書活動の推進等に関する調査研究報告書」

読書能力の発達段階

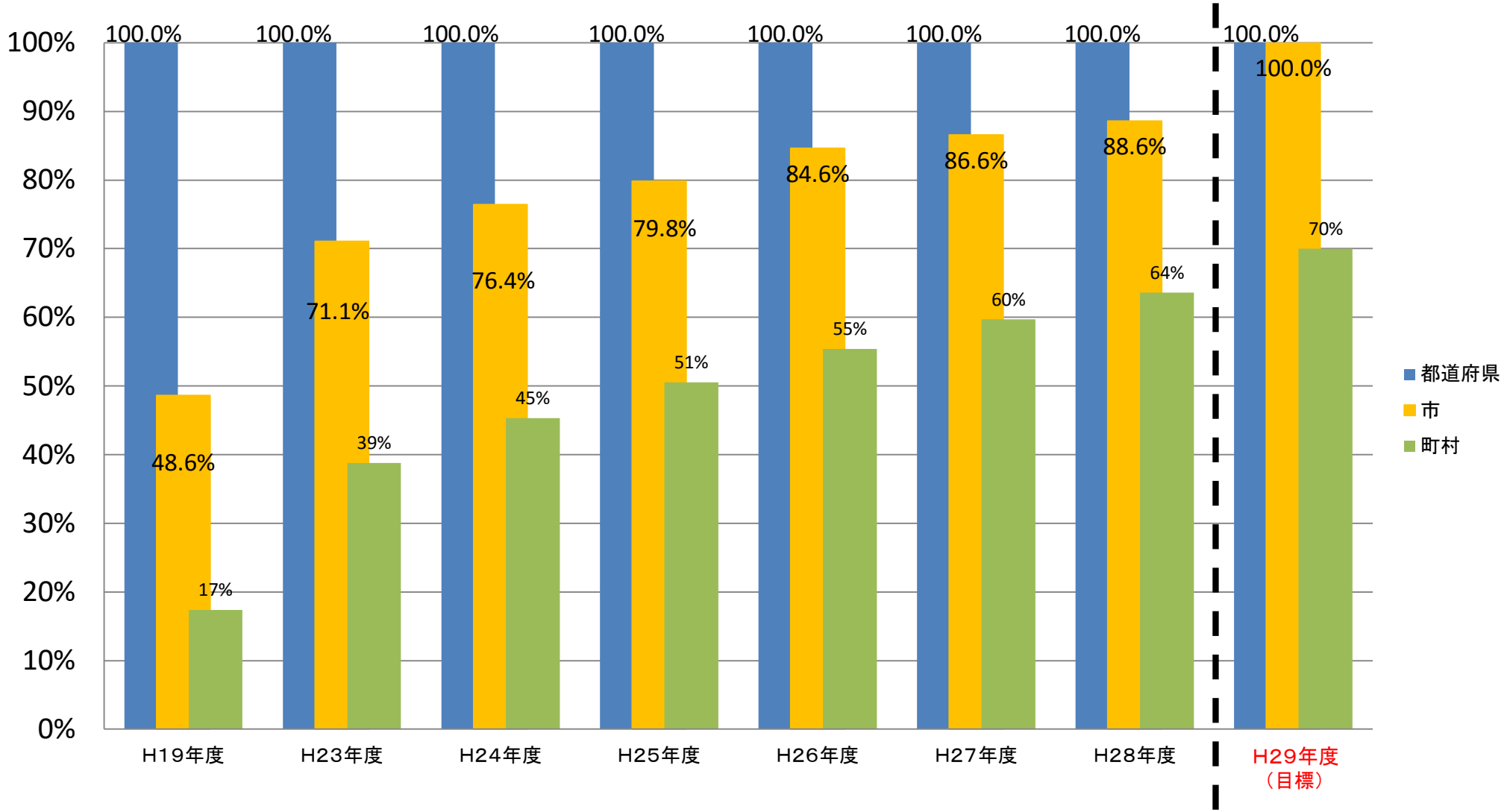
読書能力の発達は、一般的な傾向として、5つの段階とさらに下位の段階に分けられると提唱されている。

年齢		読書能力
0		前読書期
1 2 3		話し言葉で通信をしている段階。文字の存在を意識し、絵本に興味を示す
4		読書入門期
	①	読みのレディネス促進期 読み聞かせをせがむ時期。「この字は何という字？」などと親に尋ね、字を覚えていく。なぞなぞなどの言葉遊びが好きになってくる。
5	②	読書開始期 かな文字が全部読めるようになる時期。1字ずつの拾い読みのため、時間がかかる。今まで読んでもらっていた本を自分で読もうとする。
6		初歩読書期
	①	独立読書開始期 意味が簡単で、未知の語があまり出てこない文章を、ひとりで読み始める。速度は遅いが、読むことは楽しいことを実感する。
7	②	読書習慣形成期 本を読む習慣がつき始める時期である。語彙の量が増え、新しいことばが出てきても、推測しながら文意をつかむことができる。文字で表された場面や情景をイメージすることができるようになってくる。
8	③	基礎読書力熟成期 初歩の読書技術（円滑な眼球運動、正確な行がえ、1回の目の停留による把握文字数の増加等）が身につく時期である。本を終わりまで読み通すことができるようになる。また、自分の考えと比較しながら読むといった、創造的な読み方ができるようになる。
9		多読期
10	①	無差別多読期 読書技術が発達して多読になり、目的に応じた読書ができるようになる時期。自発的になんでも読むようになるが、本の選択はまだ不十分である。理解と記憶がよくなり、読みの速度も大幅にアップする。参考資料や新聞をうまく利用できるようになる。
11 12	②	選択的多読期 語彙の量が飛躍的に増加する。また、自分のニードに合った読書材を適切に選択することができるようになる。内容を評価したり、鑑賞することができる。文章の内容によって読む速度を調整できるようになる。この段階で発達がとまる者、以後かたよった面だけが発達するものが出てくるおそれがある。
13		成熟読書期
14 15 16	①	共感的読書期 読書による共感を求めて、それに適合する読書材を選択する。多読の傾向は減少し、共感したり、感動する本に出会うと、何度も読むようになる。
17 18 以降	②	個性的読書期 読書の目的、資料の種類に応じて、適切な読書技術によって読むことができる成熟した読書人としての水準に達する時期である。学術論文なども読むことができるようになる。

読書教育研究会編著「読書能力の発達」『読書教育通論　児童生徒の読書活動』学芸図書　1995 pp.43-47 を一部改変、植松 貞夫・鈴木 佳苗（編）岩崎 れい・河西 由美子・高桑 弥須子・平澤 佐千代・堀川 照代（著）「現代図書館情報学シリーズ　6　児童サービス論」樹村房　2012 pp.1-11より転載

市町村の読書推進計画策定率

第3次計画（平成25年策定）においては、市町村推進計画の策定について以下のような目標を掲げている。
・国及び都道府県はおおむね5年後（平成29年度）までに　市：100%　町村：70%以上で策定されるよう促す
しかし、現状として、策定済の市町村が増えているものの、依然として地域における取組の差がある。



出典）文部科学省「都道府県及び市町村における子ども読書活動推進計画の策定状況について」（平成28年度）

本会議の論点（案）

1．発達段階に応じた読書習慣の形成

本を読まない高校生には、高校生になるまでに本を読んでいない、あるいは本が好きでない者が一定割合含まれることから、高校生になるまでの間に発達段階に応じて読書習慣を身に付けさせる必要がある。

・子供が本を読み、本を好きになるようにするためには、発達段階に応じてどのような取組が有効か。

・発達段階に応じた取組を行うに当たって、学校（学校図書館や学校司書、司書教諭など）、家庭、地域（公立図書館など）のそれぞれでどのような取組を行うことが有効か。

2．高校生が読書をするようになるきっかけづくり

高校生の時間が限られている中で、高校生の特徴に応じて、読書をするきっかけをつくる必要がある。

・友達などと「みんなでする読書」をどのように評価し、どのように推進するか。

・書評、メディア、SNSなど他の活動と結び付けて行う読書をどのように評価し、どのように推進するか。

・学校、NPO、公立図書館、民間企業等の連携をどのように促進するか。

3．地方公共団体における推進体制

・地域間、学校間における読書活動推進の取組の差を縮小するためにどのような方策が考えられるか。また、これらの主体の読書推進に対する意識を向上させるためにどのような方策が考えられるか。

・読書活動推進の基礎となる読書推進計画の策定をどのように促進するか。

参考資料

子どもの読書活動の推進に関する法律（平成１３年法律第１５４号）の概要

基本理念（2条）

◆子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

国の基本計画（8条）

◆政府は、施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画を策定しなければならない。

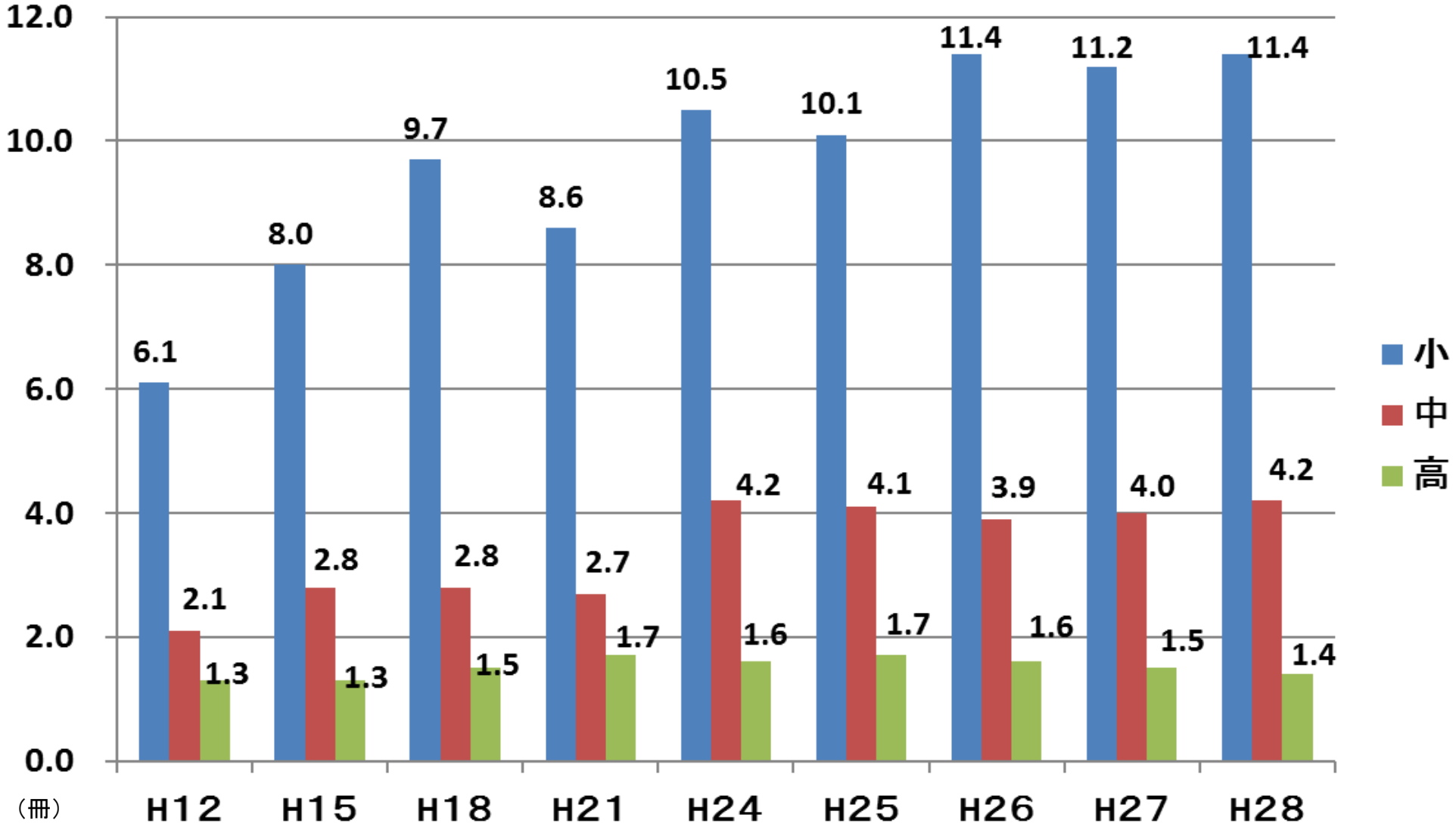
都道府県等の計画（9条）

◆都道府県は、「都道府県子ども読書活動推進計画」を策定するよう努めなければならない。
◆市町村は、「市町村子ども読書活動推進計画」を策定するよう努めなければならない。

子ども読書の日（10条）

◆国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深め、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、子ども読書の日を設ける。
◆子ども読書の日は、４月２３日とする。

小・中・高校生の1か月あたりの読書冊数



出典）全国学校図書館協議会・毎日新聞社「第62回学校読書調査」（平成28年）

学習指導要領等における記述

幼稚園：

日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに，絵本や物語などに親しみ，言葉に対する感覚を豊かにし，先生や友達と心を通わせる。

小１，２（国語）：

言葉がもつよさを感じるとともに，楽しんで読書をし，国語を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

小３，４（国語）：

言葉がもつよさに気付くとともに，幅広く読書をし，国語を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

小５，６（国語）：

言葉がもつよさを認識するとともに，進んで読書をし，国語の大切さを自覚して，思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

中１（国語）：

言葉がもつ価値に気付くとともに，進んで読書をし，我が国の言語文化を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

中２（国語）：

言葉がもつ価値を認識するとともに，読書を生活に役立て，我が国の言語文化を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

中３（国語）：

言葉がもつ価値を認識するとともに，読書を通して自己を向上させ，我が国の言語文化に関わり，思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

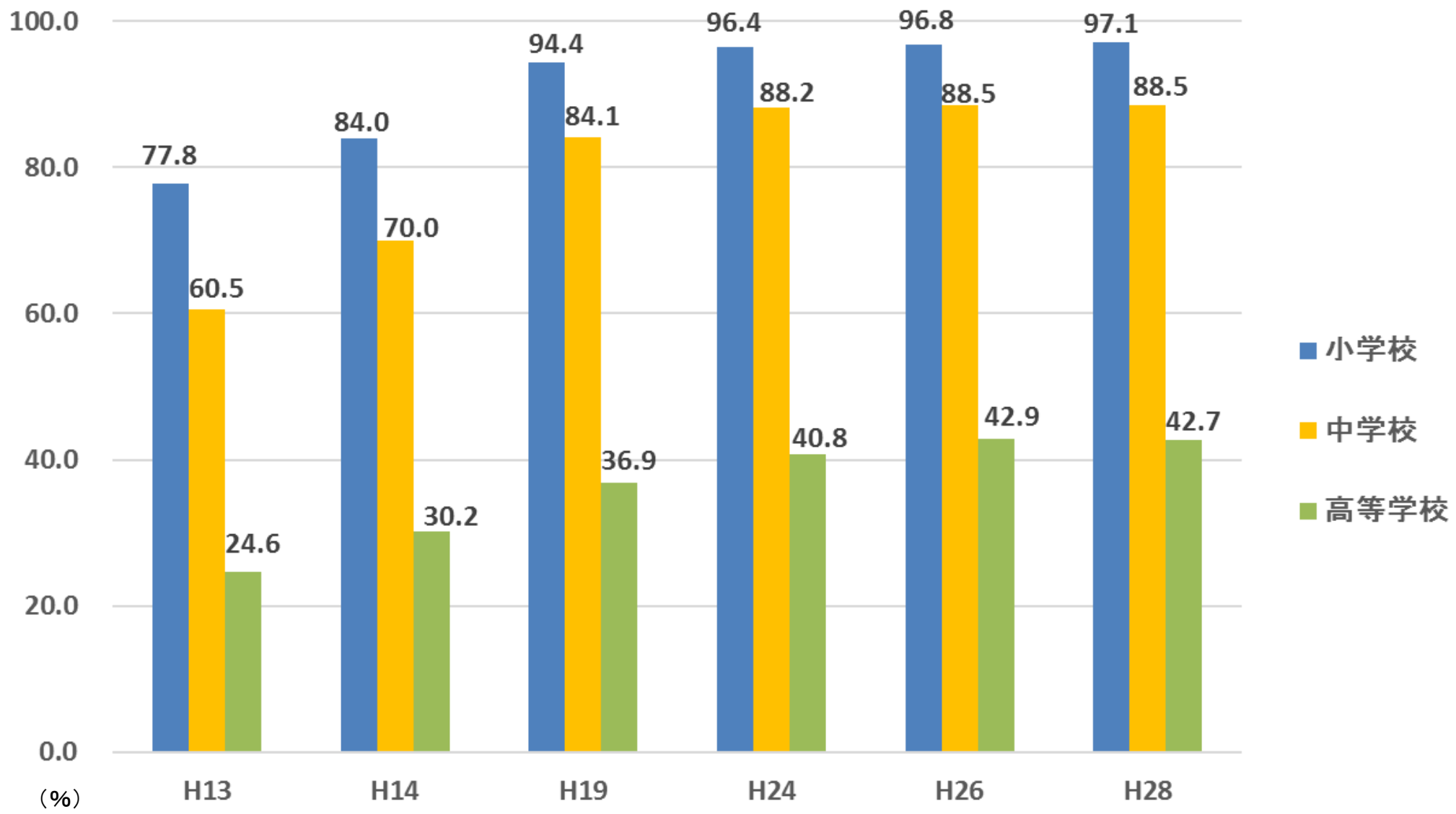
高校・現代文A（現行）：

近代以降の様々な文章を読むことによって，我が国の言語文化に対する理解を深め，生涯にわたって読書に親しみ，国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。

高校・現代文B（現行）：

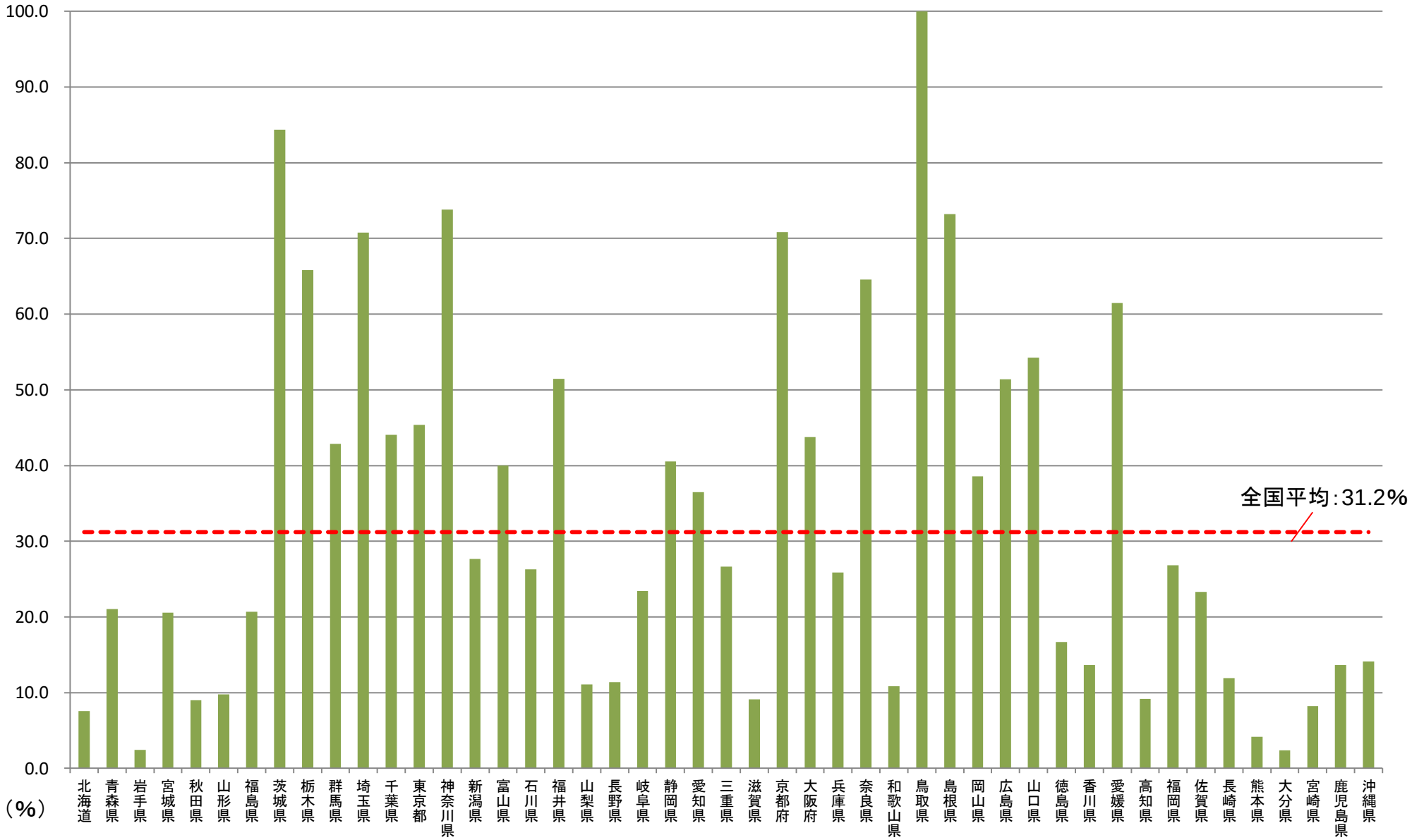
近代以降の様々な文章を的確に理解し，適切に表現する能力を高めるとともに，ものの見方，感じ方，考え方を深め，進んで読書することによって，国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。

全校一斉読書活動を実施している割合



出典）文部科学省「学校図書館の現状に関する調査」（平成28年度）

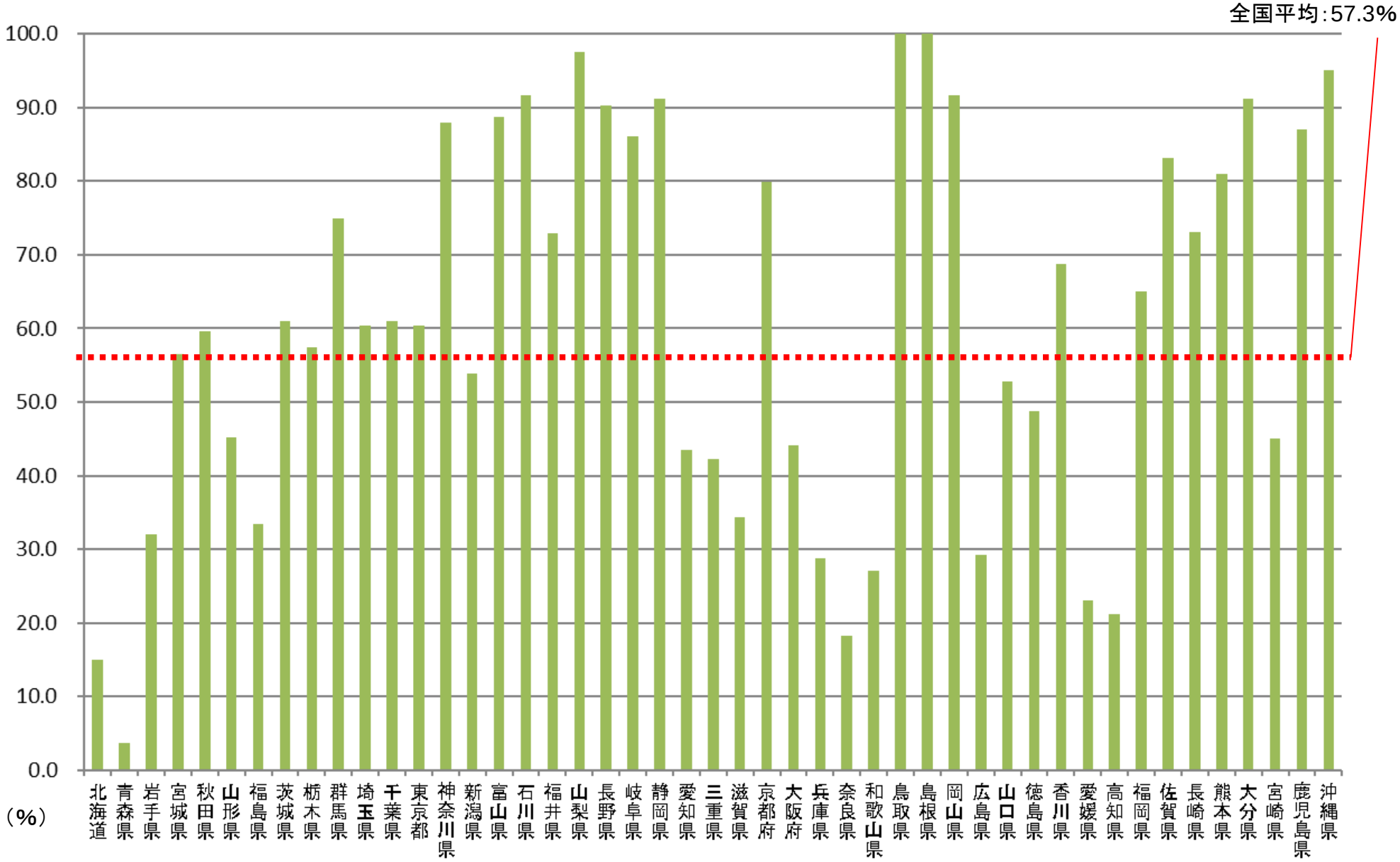
公立中学校（11学級以下）の司書教諭発令率



注）学校図書館法第五条及び附則、政令において、学校には司書教諭を置かなければならないとされているが、１１学級以下の学校においては、猶予規定が設けられている。

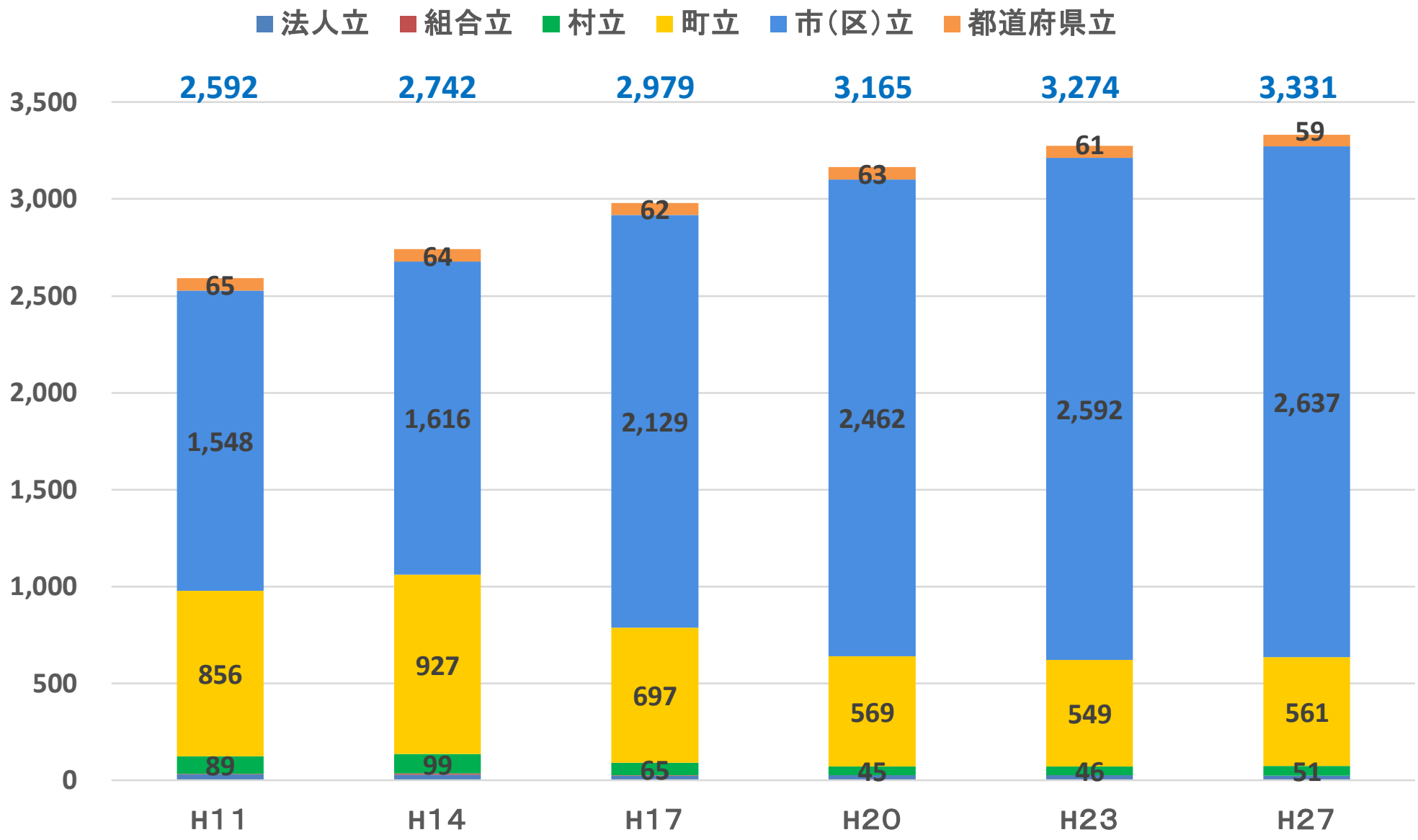
出典）文部科学省「学校図書館の現状に関する調査」（平成28年度）

公立中学校の学校司書配置率



出典）文部科学省「学校図書館の現状に関する調査」（平成28年度）

図書館数

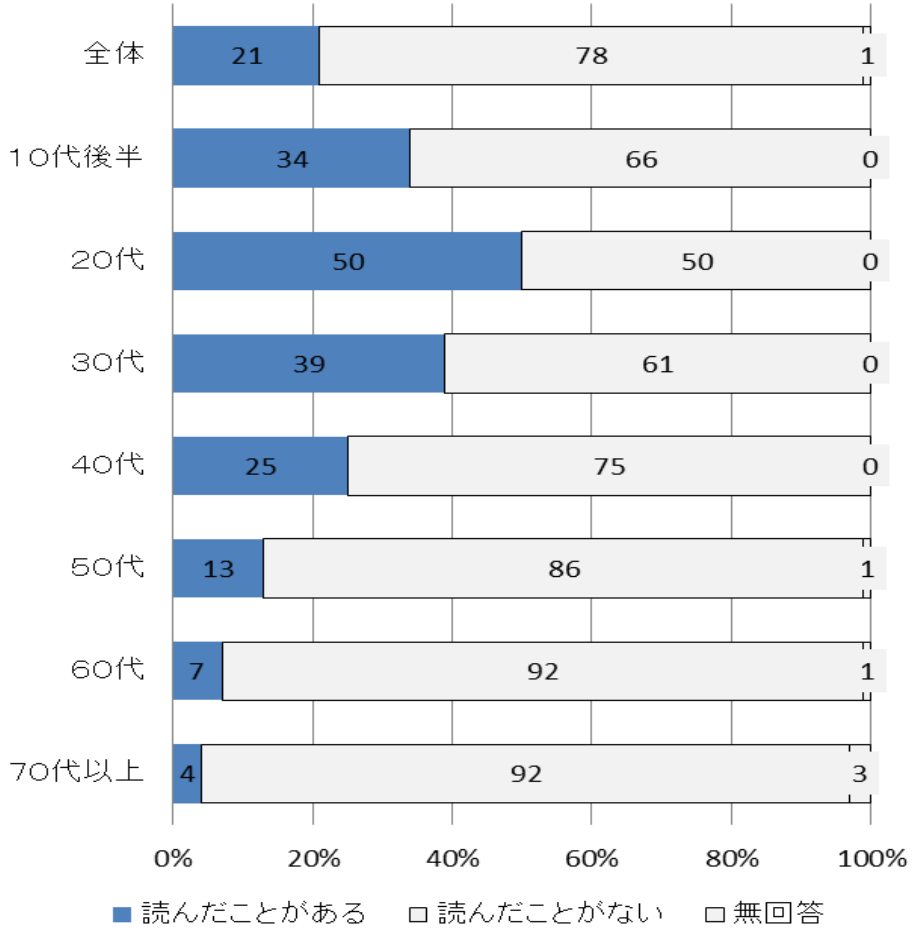


出典）文部科学省「社会教育調査」（平成27年度）

電子書籍について

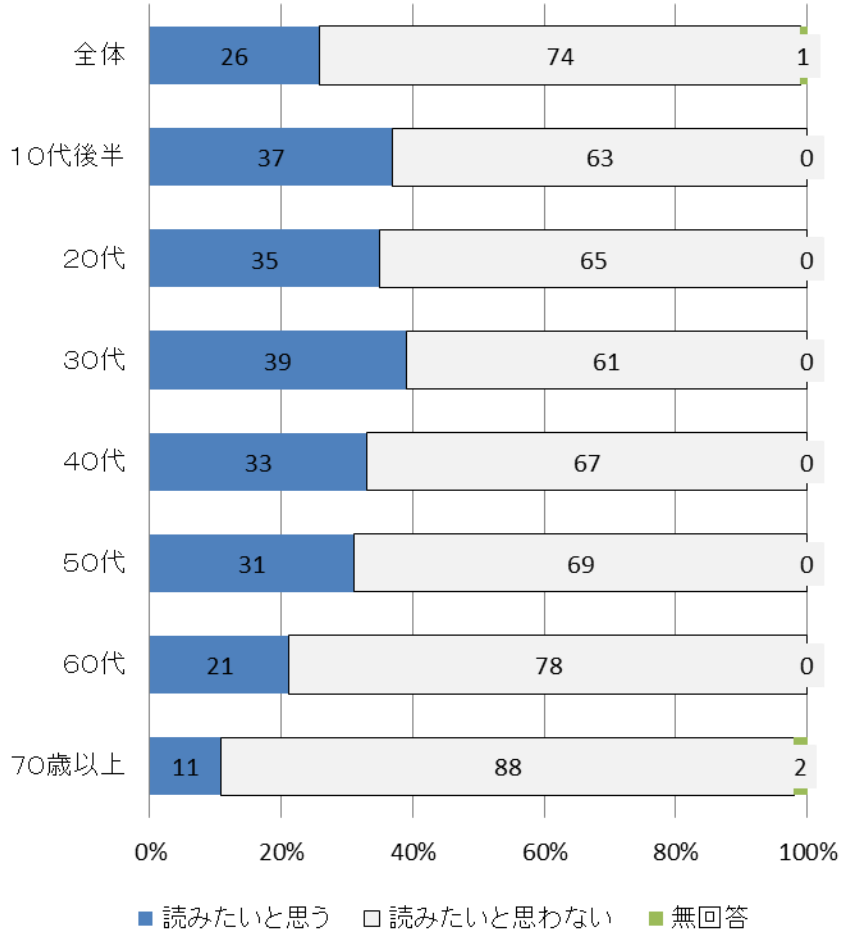
①電子書籍での読書（%）

問　あなたは電子書籍を読んだことがありますか。



②電子書籍を読みたいか（%）

問　これから電子書籍を読みたいと思いますか。



出典）全国学校図書館協議会・毎日新聞社「第68回読書世論調査」（平成26年）

文部科学省の取組①

子供の読書活動推進事業

（ 前年度 予算額 ：39,709千円 ）
29年度 予算額 ：27,753千円

Ⅰ 子供の読書活動の推進等に関する調査研究

第三次子ども読書基本計画を踏まえ、子供の読書活動の推進に関する取組についての評価・検証と、第四次子ども読書基本計画の策定に向けた、今後の施策の基礎資料とするための調査分析を行う。

◆平成26年度：「高校生の読書に関する意識等調査」

◆平成27年度：「地域における読書活動推進のための体制整備に関する調査研究」

◆平成28年度：「子供の読書活動の推進に関する調査研究」

Ⅱ 読書コミュニティ拠点形成支援

学校、図書館、読書ボランティア団体等による読書コミュニティの構築を促進するため、「子どもの読書活動推進ネットワークフォーラム」等を全国各地で開催し、それぞれの取組の紹介や子ども読書活動推進計画をはじめ、子供の読書活動を推進する諸施策（高校生の不読率改善に資する取組、家読、ビブリオバトル）等に関する情報提供等を行う。

◆委託件数：平成27年度5件、平成28年度5件、平成29年度7件

Ⅲ「子ども読書の日」（4月23日）の理解促進

国民の間に広く子供の読書活動について関心と理解を深め、子供の読書活動を推進するために、「子ども読書の日」（4月23日）を広く周知するとともに、特色ある優れた取組を行っている民間団体等を表彰する。

◆47都道府県へ「子ども読書の日」啓発ポスターを配布

◆子どもの読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）文部科学大臣表彰
（平成29年度表彰内訳：学校134校、図書館50館、団体54件）

子供の読書活動に係る環境整備を促進

第5次学校図書館図書整備5か年計画（概要）

◆平成29年度からの5年間で学校図書館図書標準の達成を目指す：
単年度約220億円（5か年計約1，100億円）

（内訳）増加冊数分：単年度約　65億円（約325億円）
　　更新冊数分：単年度約155億円（約775億円）

第4次（平成24～28年度）：単年度約200億円（5か年総額約1000億円）
第3次（平成19～23年度）：単年度約200億円（5か年総額約1000億円）
第2次（平成14～18年度）：単年度約130億円（5か年総額約　650億円）
　　（平成10～13年度）：単年度約100～110億円の措置を実施
第1次（平成　5～　9年度）：　　（5か年総額約　500億円）

◆学校図書館への新聞配備　：約30億円（5か年計約150億円）

（内訳）小学校等（1紙）、中学校等（2紙）：約20億円（5か年計約100億円）
　　高等学校等（4紙）　　：約10億円（5か年計約　50億円）【新規】

第4次（平成24～28年度）：5か年計約75億円（小・中学校等に1紙）

◆学校司書の配置（新たに5か年計画に位置づけ）：　約220億円
（5か年計約1,100億円）

（内訳）おおむね1．5校に1名程度、小・中学校に配置することが可能な規模を措置